

テモテへの手紙第二 3:10-17 みことばにとどまる

デクスターさんが先週の説教で語っておられたように、今日の聖書箇所である第二テモテ 3:10-16 は、私たちが今生きている世の有様についての描写に続くものです。日々、イエス・キリストの再臨が近づくにつれ、ますます罪深くなっている世界です。その証拠に、いくつかニュース記事を読んでみれば明らかです。朝日新聞は数週間前、選択的中絶について取り上げた記事に「妊娠 11 週から 13 週の間に、特定の胎児の心拍を停止させるために、塩化カリウム注射が用いられた。」とありました。心臓が鼓動している人ではなく、細胞の集まりに過ぎない胎児だとすれば、赤ちゃんを殺すことについて語るのは簡単です。それら一つ一つの命が持つ人としての生命や神の似姿について考えることを社会は避けたがります。キリストの視点でこの世を見始めると、そのような世界観は、神からますます離れていく社会において、多くの物事について同じような見方をさせるのだと気づかされます。デクスターさんが先週指摘されていたように、世界がますます罪深い状況に陥る中で、私たちがどのように応答するべきかをこの章全体は示しています。この箇所の中で、使徒パウロは、常に倫理的に曖昧で道徳的に腐敗し続けている世において、真理と明確な指針の唯一かつ究極の源を指し示しています。その真理の究極の源とは、神のみことば、聖書です。そして、ますます罪深くなっていく世において、テモテと教会にとって励ましとなるのは、み言葉に留まり続けることでした。

今日の最初の箇所、第二テモテ 3:10-13 を読みましょう。「しかしあなたは、私の教え、生き方、計画、信仰、寛容、愛、忍耐に、11 また、アンティオキア、イコニオン、リステラで私に降りかかった迫害や苦難に、よくついて来てくれました。私はそのような迫害に耐えました。そして、主はそのすべてから私を救い出してくださいました。12 キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。13 悪い者たちや詐欺師たちは、だまされたり、だまされたりして、ますます悪に落ちて行きます。」テモテは、自分の人生における神の招きに対して忠実であることの最高の模範を、彼のメンターでもあったパウロに見出しました。彼はパウロの生き方を間近で見えていました。そこで、パウロは、テモテが悪に立ち向かうのを助けるための最後の励まし、あるいは勧めとして、テモテ自身の人生の 9 つの側面を挙げ、彼がキリストに従い、堅く立ち続けることを励ましました。まず、テモテが自分の「教え」を知っていると言いました。パウロが新約聖書のどれだけを記したか考えてみてください。一般的に、27 書のうち彼が書いた 13 か 14 の書（ヘブル人への手紙の著者は明確ではありません）は、新約聖書の 24% を占めるとされています。パウロの教えは、16 節に見られる理由から、神のみ言葉として認識されており、悪に満ちた世にあって私たちの支えとなっています。二つ目に、パウロは、周囲の悪にどう応答すべきかの模範として、テモテが自分の生き方を真似たと言っています。パウロの教えは単なる言葉によるものでなく、行動を伴うものでした。その生き方と振る舞いは、彼が教えていた神のみ言葉に従うものでした。そして、テモテが知り、模範にすべき第三の側面、パウロの計画にも見られるように、それはパウロの人生のあらゆる領域において真実でした。神のみ言葉を通して神を知れば知るほど、み言葉は私たちの人生のあらゆる方向性と目的を形作るべきです。その目的とは、何らかのフルタイムの奉仕に捧げる人生にのみ与えられるものではありません。この書簡は、テモテだけではなく、教会全体に宛てられたものであったことを思い出してください。どのような職業に就いておられようと、それが主婦であろうと、会計士や、教師や、シェフ、配管工や電気技師、データ入力、工場労働者であろうと、あなたの計画と目的は、神のみ言葉に従うことによって神に栄光を帰すことであるべきです。

そのように従うことは、私たちの生き方を決めるイエス・キリストへの信仰ゆえに可能です。そこでパウロはテモテに、自身の人生における第四の側面を「私の信仰」を知っているでしょうと言って思い起こさせます。信仰は、私たちのための十字架の死という、キリストの贖いの業の恵みを人が受ける手段です。エペソ人への手紙 2:8-9 は「この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。9 行いによるものではありません。だれも誇ることもないためです。」と言っています。神は、イエスを、そしてイエスが十字架上で成し遂げてくださったことが私たちを罪から救うのだという真実を私たちが

信じることができるよう、信仰を与えて下さいます。私たちは皆罪人です。私たちは神の律法に従い、それを尊ぶことができず、その罪ゆえに神から遠ざけられ、神が造られた者を加えようとされた家族からさえも引き離されてしまいました。ですが、使徒の働き 16:13 は、「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも救われます。」と言っています。神は、私たちにイエスを信じ、主であり救い主と受け入れる信仰を与えることで恵みを示してください。その信仰は、人生のあらゆる状況を十字架の視点を通してみることで、私たちがどのように生きるのかに影響を及ぼし続けます。それは、私たちが自分の罪深さと、私たちを罪から贖うため、罪に対する神の永遠の怒りから救うためにイエスが死んでくださったことにより示される神の愛を理解することを通して、すべてを吟味するようになることを意味します。

パウロやテモテが持っていた、私たちも持つことができるイエス・キリストへの真の信仰は、頭で真理に同意するだけで、生活に何の変化ももたらさない信仰ではありません。私たちの生活のあらゆる領域において実際の変化をもたらす信仰です。ですからパウロは、その信仰がもたらす違いを示す 5 つ目、6 つ目、7 つ目の側面をテモテに思い起こさせています。彼は、他人に対して寛容でした。他の人を深く愛し、気遣いました。そして、どのような状況下でも、忍耐し、信仰を実践する生き方を追求しました。彼には信仰を保ち続けるために、忍耐が必要でした。それは、キリストに従う者には、パウロの人生における最後の二つの側面、8 番目の迫害と、9 番目の苦難が確実にやってくるからです。迫害とは、特にキリストの御業のために苦しむことです。ですから 12 節には「**キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けま**
す。」とあります。全ての苦しみが迫害なのではありません。実際、苦しみにはクリスチャンか否かに関わらず、人が存在する以上経験するのが常であるものもあります。また、自分の罪深い行いや態度ゆえに自ら招く苦しみもあります。ですが、イエス・キリストを知り、真にキリストに倣って生きる人であれば、何らかの迫害に直面することでしょう。宗教の自由が保障されたこの国においても、聖書に基づく倫理を守るがゆえに、就職の機会を失ったり、信頼されなくなったりする可能性があります。先祖崇拜や神道・仏教の儀式を含む親族行事に参加しないという理由で、家族の怒りを買ってしまっているという方もおられるかもしれません。教会としては、聖書の真理に堅く立つことが、私たちの宗教法人としての立場や税制上の優遇を失うリスクを伴う日が来るかもしれません。他の国では、イエス・キリストに従うことは、文字通り自由を失うこと、それどころか命を危険にさらすことすらあります。こうした状況は、私たちが進んで求めるわけでも、必死に避けようとするわけでもありませんが、必ず何らかの形で起こることが約束されています。

パウロは自分が経験した迫害のことについてテモテに思い出させました。これらの 3 つの都市は、テモテがパウロと共に実際に旅を共にし、迫害を自分も目撃した場所であったのではないかと思います。アンティオキアについては使徒の働き 13:49-50 にこう記されています。「**こうして主のことばは、この地方全体に広まった。50 ところが、ユダヤ人たちは、神を敬う貴婦人たちや町のおもだった人たちを扇動して、パウロとバルナバを迫害させ、二人をその地方から追い出した。**」その後彼らはイコニオンへ行きますが、そこでのことについて使徒の働き 14:4-5 にこう記されています。「すると、町の人々は二派に分かれ、一方はユダヤ人の側に、もう一方は使徒たちの側についた。5 異邦人とユダヤ人が彼らの指導者たちと一緒にになり、二人を辱めて石打ちにしようと企てたとき」彼らはそこからリステラという町へ向かい、そこで迫害が激しさを増します。使徒の働き 14:19 にはこうあります。「ところが、アンティオキアとイコニオンからユダヤ人たちがやって来て、群衆を抱き込み、パウロを石打ちにした。彼らはパウロが死んだものと思って、町の外に引きずり出した。」これらのことは、彼らが律法を破ったり、犯罪を犯したりしたから起こったわけではありません。イエス・キリストの福音を広め、人々を癒しすらしていたのに、人々が彼らの宣べ伝えるメッセージを信じたことに、宗教指導者たちは怒りを覚えたのです。

このますます悪化する世において、たとえ迫害にあったとしても、変えられた人生を通して、自分のキリストへの信仰を証しするには、どのように生きればよいのでしょうか。その答えは、パウロが教え、今説明している神のみ言葉です。14-17 節を読みましょう。「14 けれどもあなたは、学んで確信したところにとどまっていなさい。あなたは自分がだれから学んだかを知っており、15 また、自分が幼いころから聖書に親しんできたことも知っているからです。聖書はあなたに知恵を与えて、キリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができます。16 聖書はすべて神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。17 神の人がすべての良い働きにふさわしく、十分に整えられた者となるためです。」この箇所の鍵となる16-17 節に入る前に、テモテが聖書を学んだ方法について見ておく必要があります。彼は幼いころから学んでいました。第二テモテ 1:5 で「5 私はあなたのうちにある、偽りのない信仰を思い起こしています。その信仰は、最初あなたの祖母ロイスと母ユニケのうちに宿ったもので、それがあなたのうちにも宿っていると私は確信しています。」とあったのを思い出してください。彼の母と祖母は、テモテに神のみ言葉をしっかりと学ばせることで、自分たちの信仰を伝えました。親として、私たちは子どもたちが学ぶべき多くのことに気を配らなくてはなりません。生まれたときには、私たちが何もかもしてあげる必要がありますが、すぐに子どもたちに食べること、歩くこと、話すことを教え始めます。それから、幼稚園に通わせ、読み聞かせをして、教育をはじめます。おもちゃは学びの手段となり、最終的には彼らを学校に通わせ、その環境で学ばせます。知識を学ぶことで、この地での生活と成功を可能にするのです。ですが、真理を受け入れ、信じることで永遠の救いをもたらす知識を学ぶことができる場所の一つだけです。それは、知恵を与えて救いを受けさせることができる神のみ言葉です。聖書は、私たちの罪とその罪に対する罰と結果からの救いは、イエス・キリストへの信仰を通してのみ得ることができると教えています。使徒の働き 4:12 はイエスについて「この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです。」と言っています。神のみ言葉に記されたイエス・キリストについての知識は、この世界で得られる他のどんな知識よりも重要です。親として、キリスト者として、私たちは自分自身や子どもたちのために決断するとき、何を読み、見て、学ぶのかにおいて、そのことを忘れてはなりません。

ですが、神のみ言葉は単に救いのためだけにあるものではありません。今日の聖書箇所の終わりには、聖書が人生のすべてに不可欠なのは、それを神のみ言葉とするものゆえであることが分かります。それを神のみ言葉とするものとは、それが誰によって記されたかです。16 節は「聖書はすべて神の靈感によるもの」だと言っています。聖書の靈感という神学的なことについてお話しします。それは、聖書がどのように成立したのかということについてです。ESV の英語訳では、み言葉が神によって「吹き出された」とあります。聖書の中で「テオプネウストス」という言葉が使われているのはここだけです。ですから、神がことばを吹き出されたという概念はとても重要です。靈感については、様々な理論がありますが、聖書学者によって支持され教えられている主な見解が4つあります。新正統主義の見方は、聖書のことばが読まれるときに神のことばとなるとしています。聖書は神のみ言葉を含んでいるものの、主に神の啓示を人が記録したもので、神から直接与えられたものではないとします。この見方は、神が生ける神の言葉を直接吹き出していることにならない点で不十分です。口述説は、神がすべてのことばを直接口述させたとしませんが、これは聖書著者一人一人の個性やスタイルを無視しています。例えば、ヘブル人への手紙にあるような複雑なギリシャ語と、ヨハネの福音書にあるようなシンプルなギリシャ語の違いを見ることができます。限定的靈感説は、聖書を主に人の歴史的著作物と見なし、真に「神が息を吹き込まれた」内容はほとんど含まれていないと主張し、その結果、聖書には神の権威が伴わないと結論付けます。これは、使徒パウロが16 節で神が語っているとした内容と全く一致しないように思われます。最後に、聖書自体の主張と最も一致する見方は、逐語的完全靈感説です。逐語的とは、単なる概念がではなく、一語一句が神の言葉であり、完全とは、それが完全に靈感を受けたものであることを意味します。第二ペテロ 1:21 は「なぜなら、預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語った」と言っています。つまり、聖霊なる神はみ言葉を記すために選ばれた者たちの個性とことばを通して語られ

たのです。16 節は、「聖書はすべて神の靈感による」としており、その完全性を明確にしています。

そして、神のみ言葉は完全で聖なる神によって吹き出されたものだからこそ、私たちはこの神のみ言葉が最初に与えられたときのまま、主張し述べるすべてにおいて誤りがなく、不変であることを宣言できるのです。また、それ以上に重要なことは、それが私たちの生き方の基準を示す権威あるものだということです。だからこそ、神から直接与えられた知識と知恵がそこにあり、私たちが学ぶ他の何よりもはるかに重要なのです。神のみ言葉の権威は、私たちの人生のすべてに不可欠です。16-17 節はこのように終わります。「6 聖書はすべて神の靈感によるものであるだけでなく、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。17 神の人がすべての良い働きにふさわしく、十分に整えられた者となるためです。」これが、聖書が私たちにとってなぜそれほど重要なのかの理由です。聖書は単に永遠の命を得るためにどのように生きればよいのかをおしえてくれるだけではなく、今この瞬間をどのように生きるべきかを教えてくれます。つまり、聖書を読むこと、理解すること、暗記すること、そしてその神の言葉に従うことは、私たちの益となるのです。その中で、神は私たちに、ご自分がどのような方なのか、そして私たちは何者なのかを教えてください。神は聖書の中で、私たちの罪を戒められ、何が間違っているのか、何が正しいのかを教えてください。罪深さを示し、そこにある私たちの思いや行いを正してくれるのも聖書です。また、私たちに真に義なる生き方、罪のない生き方、神と共に生きることを示してくれるのも聖書です。神のみ言葉が私たちの内にそのように働くとき、私たちはキリストに在って成長し、聖書が教えているように、神が私たち一人ひとりに備えてくださった神の良い働きのために整えられるのです。エペソ人への手紙 2:10 は「10 実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました。」と言っています。神様が私たちに求めておられることをどのように行うことができるのでしょうか。私たちを取り巻く罪深い世をどのように乗り越えていけば良いのでしょうか。学校やニュースメディア、周囲の文化から得られる教えをどのように判断すれば良いのでしょうか。神のみ言葉深くに浸ります。このみ言葉は真実で益となり、私たちの人生にどんな苦難や迫害が訪れようとも、信仰によって生きるために備えてくれます。最後に AW トーザーの著書「神と人について」の中の言葉をぜひ心に刻んでください。「私たちは神のみ言葉を愛し、その中に生き、それを食べ、飲み、そこに横たわり、その中を歩き、それに立ち、それに誓い、それに従い、そこに安息しましょう。」お祈りします。

2Timothy 3:10-17 Stay in the Word

As Dexter addressed last week in his message, our passage for today, 2Timothy 3:10-16, is preceded by a description of the world we are living in today. A world that is increasingly more sinful as the return of Jesus Christ draws nearer every day. For proof of that look at any number of news articles. *In the Asahi Shimbun a few weeks ago speaking about selective reduction abortions, I read the following quote: “The procedures were conducted during weeks 11 to 13 of pregnancy using potassium chloride injections to stop the heartbeat of the selected fetus.”* It’s easy to talk about killing a baby when it is just a fetus and collection of cells rather than a human being with an active heartbeat. Society would rather not think about human life and the image of God that each of those lives bears. When we begin to look at the world around us through the eyes of Christ, that worldview will lead us to see many things in that way in a society increasingly disconnected from God. As Dexter pointed to last week, this whole chapter is showing what our response should be to the increasingly more sinful situation in the world. And as this passage continues the Apostle Paul points us to the one ultimate source of truth and clear direction in a world that is more and more ethically blurry and morally corrupted all the time. That ultimate source of truth is the Word of God, the Bible. And the encouragement to Timothy and to the church in this increasingly sinful world is to **stay in the Word!**

Let’s continue by reading the first part of our passage for today, 2Timothy 3:10-13.

¹⁰You, however, have followed my teaching, my conduct, my aim in life, my faith, my patience, my love, my steadfastness, ¹¹my persecutions and sufferings that happened to me at Antioch, at Iconium, and at Lystra—which persecutions I endured; yet from them all the Lord rescued me. ¹²Indeed, all who desire to live a godly life in Christ Jesus will be persecuted, ¹³while evil people and impostors will go on from bad to worse, deceiving and being deceived. Timothy had the best example of faithfulness to the call of God on his life in his mentor, Paul. He had observed Paul’s manner of living up close. And so he begins what is his final encouragement or exhortation to Timothy to help him stand up in the face of evil by pointing out 9 different aspects of his own life that could help Timothy to stand firm in following Christ. He says **first** that Timothy knew about his “teaching.” Think about how much of the Bible Paul wrote in the New Testament. It is generally considered that his 13 or 14 (Hebrews isn’t clear) of 27 books make up 24% of the new Testament. So going to Paul’s teaching, which we recognize as the Word of God for reasons we will see when we get to verse 16, can sustain us in the middle of an evil world. But **secondly**, he says Timothy followed his **conduct** as an example of how to respond to evil around him. The teaching of Paul was not just words, but actions. His way of life, his conduct was obedience to the Word of God that he was teaching. And this was true for all areas of Paul’s life as we see the **third** aspect of his life that Timothy knew and should model – his **aim in life**. The more we know God through the Word of God, it should shape the direction of our entire life and purpose. This purpose is not just in a life dedicated to full time ministry of some sort. Remember this letter is directed not just to Timothy but to the church. No matter what profession you have, whether homemaker or accountant or school teacher or chef or plumber or electrician or data processor or factory worker, your aim in life, your purpose should be to glorify God through obedience to God’s Word.

And this obedience is possible because of our faith in Jesus Christ that shapes all of our life. So Paul reminds Timothy of the **fourth aspect** of his life that he has observed when he says, Timothy, you know... “**my faith.**” Faith is the means by which a person receives the benefits of Christ’s atoning work, his death for us on the cross. [Ephesians 2:8-9](#) says, **8 For by grace you have been saved through faith. And this is not your own doing; it is the gift of God, 9 not a result of works, so that no one may boast.** God gives us this faith so that we can believe in Jesus and the fact that what he did on the cross saves us from our sin. All of us are sinners. We have failed to obey and honor God’s law and that sin has separated us from God and his family that he intends for his creation to be a part of. But [Acts 16:31](#) says in part, **Believe in the Lord Jesus and you will be saved...** God shows his grace towards us by giving us the faith to believe in Jesus and accept him as our Lord and Savior. But that faith continues to be how we live our lives as we look at every circumstance of life through the lens of the cross. This means we begin to examine everything through the understanding of our sinful unworthiness, and God’s love shown to us by Jesus dying to redeem us from our sin and rescue us from God’s eternal wrath against that sin.

Real faith in Jesus Christ that Paul had and Timothy had and we can have as well is not a faith that gives mental assent to the truth and then goes about life as if nothing has changed. It is a faith that is demonstrated by real change in every area of our lives. So, Paul reminds Timothy of a **fifth, sixth and seventh** characteristic of his life that shows Timothy the difference his faith has made. He is more **patient** towards others. He deeply **loves** and cares about others. And he pursues living out his faith in way that is resolute or **steadfast** and firm in the face of any circumstance. And he needs that steadfastness in his faith to keep on going, because there are two final aspects of Paul’s life that are certain for the follower of Christ – **number 8 persecution** and **number 9, suffering**. **Persecution** specifically, is suffering for the cause of Christ. So, verse 12 tells us, **¹²Indeed, all who desire to live a godly life in Christ Jesus will be persecuted...** Now, not all suffering is persecution. In fact some suffering is just a normal part of human existence that would be felt by Christian and non-Christian alike. Other suffering we bring on ourselves because of our own sinful actions and attitudes. But every person who knows Jesus Christ and truly lives in a Christlike way, will face some type of persecution. Here in a country with freedom of religion, you may lose a job opportunity or not be trusted because of your commitment to ethics formed by the Bible. Some of you may face the anger of your family because you can’t participate in certain family traditions that involve ancestor worship and Shinto and Buddhist ceremonies. As a church there may come a day where standing fast on the truth of Scripture may risk our Religious Entity status or tax exemption. But in other countries, you literally risk your freedom or even your life if you follow Jesus Christ. This is not something that we seek or necessarily seek to avoid, but we are promised that it will happen in some way.

Paul reminds Timothy of some specific times of persecution that he suffered. These three cities mentioned were likely cities where Timothy was actually traveling with Paul and saw the persecution first hand. We read about Antioch in [Acts 13:49-50](#) **And the word of the Lord was spreading throughout the whole region. 50 But the Jews incited the devout women of high standing and the leading men of the city, stirred up persecution against Paul and Barnabas, and drove them out of their district.** So, they left and went to Iconium, and we read what happened there in [verses 4-5 of Acts 14...](#) **4 But the people of the city were divided; some sided with the Jews and some with the**

apostles. 5 When an attempt was made by both Gentiles and Jews, with their rulers, to mistreat them and to stone them... They leave from there to the town of Lystra where the persecution takes a deadly turn. We read in Acts 14:19 But Jews came from Antioch and Iconium, and having persuaded the crowds, they stoned Paul and dragged him out of the city, supposing that he was dead. None of this happened because they broke laws or committed crimes. They were preaching the gospel of Jesus Christ and even healing people, and religious leaders got angry because people were believing the message they were proclaiming.

How do you live your life in this increasingly evil world in such a way that your faith in Christ is evident to all through a changed life, even in the face of persecution? The answer is the Word of God that Paul teaches and that he now explains. Let's read verses 14-17. ¹⁴But as for you, continue in what you have learned and have firmly believed, knowing from whom^[a] you learned it ¹⁵and how from childhood you have been acquainted with the sacred writings, which are able to make you wise for salvation through faith in Christ Jesus. ¹⁶All Scripture is breathed out by God and profitable for teaching, for reproof, for correction, and for training in righteousness, ¹⁷that the man of God^[a] may be complete, equipped for every good work. Before we get to the key verses in this passage in verses 16-17, we should see the primary way Timothy learned the Bible, here called the scriptures and the sacred writings. He learned it from childhood. Remember back to 2Timothy 1:5 that says, 5 I am reminded of your sincere faith, a faith that dwelt first in your grandmother Lois and your mother Eunice and now, I am sure, dwells in you as well. His mother and grandmother passed on their faith by ensuring that Timothy knew the Word of God. As parents, we have to be concerned with so much that our children need to learn. When they are born, they need us to do everything for them, but we begin teaching them very soon how to eat, walk, and talk. Later on we put them in kindergarten and read to them to begin their formal education. Toys become a way to learn, and eventually we send them to school to learn in a formal setting. So much learning for knowledge that makes life and success on this earth possible. But there is only one place to learn the knowledge that will bring eternal salvation when you accept and believe the truth...that is the Word of God that is able to make you wise for salvation. The Bible says that salvation from our sin and the penalty and consequences of our sin is found only through faith in Jesus Christ. Acts 4:12 tells us about Jesus, And there is salvation in no one else, for there is no other name under heaven given among men by which we must be saved." The knowledge of Jesus Christ as found in the Word of God is more important than any other knowledge you can gain in this world. As parents and Christians we need to remember this as we make choices for ourselves and our children in what we prioritize to read, to watch, to learn to better ourselves.

But the Word of God is not just for salvation. When we come to the end of today's passage, we see that the Bible is sufficient for all of life because of what makes it the Word of God. What makes it the Word of God is its author. Verse 16 says, "All Scripture is breathed out by God..." The old King James word for this is inspiration, so we talk about the theological category of Biblical inspiration. It is the doctrine of how the Scriptures came to be. And it all revolves around what it means that the Scripture is "breathed out" by God. This is the only place in the Bible where the word, THEOPNEUSTOS is used, so this idea of God breathing out his Word is very important. There are many different theories of inspiration, but essentially there are four primary views that are held and taught by Biblical scholars. The neo-orthodox view says

Scripture becomes God's Word as you read it. It contains God's Word but is mostly a human record of God's revelation, not directly from God. This view is deficient in that God is not directly involved in breathing out a living Word of God. **The dictation view** claims God directly dictated every word, which ignores the distinct personalities and styles of biblical writers. We see those styles for example, in the complex Greek of a book like Hebrews compared to the simple Greek of the gospel of John. The **limited inspiration view** sees the Bible mainly as human historical writings with little truly "God-breathed" content, leaving it without the authority of God behind it. This does not seem to agree at all with what God says through the Apostle Paul here in verse 16. Finally, the view that best matches Scripture's own claim is **verbal plenary inspiration** (逐語的完全靈感). *Verbal* means every word is God's Word, not just the ideas, and *plenary* means completely or fully inspired. [2 Peter 1:21](#) says, "For no prophecy was ever produced by the will of man, but men spoke from God as they were carried along by the Holy Spirit..." So God the Holy Spirit guided the words through the personalities and vocabulary of those he chose to write. And verse 16 affirms, "**ALL Scripture is God breathed**..." giving us our term plenary.

And because the Word of God is breathed out by a perfect and holy God, then we can declare that this Word of God as originally given is without error or inerrant in everything it affirms and says. But it means even more than that, it means that it is the authority for how we live our life. That is why the knowledge and wisdom it contains which is directly from God is of far greater importance than anything else we can study. And that authority of God's Word makes it sufficient for all of life. This is where verse 16-17 ends. ¹⁶ **All Scripture is not only breathed out by God, it is... profitable for teaching, for reproof, for correction, and for training in righteousness,** ¹⁷ **that the man of God^[a] may be complete, equipped for every good work.** This is why the Bible is so critical for us to know. It doesn't just tell us how to live for eternity, it tells us how to live now! It is profitable, in other words, there is gain for us in reading and understanding and memorizing and obeying God's Word. It is where God teaches us who he is, and who we are. It is in the Bible where we are reproved for our sins, where God tells us what is wrong...and what is right. It is the Word of God that corrects us in those thoughts, those actions that it shows to be sinful. And it is the Word of God that shows us how to live our lives in a way that is truly righteous, without sin and in harmony with God himself. When the Word of God is doing that work within us, then we are growing in Christ and being equipped for the good work that the Bible tells us God has prepared for each one of us to do in service to him. [Ephesians 2:10](#) says, **10 For we are his workmanship, created in Christ Jesus for good works, which God prepared beforehand, that we should walk in them.** How are we going to do whatever it is that God want us to do? How are we going to navigate this sinful world that is all around us? How do we evaluate other teaching we receive in school or even from news media or the culture around us? We immerse ourselves in the Word of God. This Word is true and profitable and will prepare us to live out our faith no matter what suffering or persecution comes into our life. Let me close by encouraging us to take these words to heart from [AW Tozer's book, *Of God and Men*](#), "Regarding God's Word, let us love it and live in it and eat it and drink it and lie down on it and walk on it and swear by it and live by it and rest in it." Let's pray.